

11月月例労働経済報告のポイント

一般経済

○ 景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・ 輸出は、アジア向けを中心に、増加している。生産は、持ち直している。
- ・ 企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、下げ止まりつつある。
- ・ 企業の業況判断は、依然として厳しい状況にあるものの、全体として持ち直しの動きが続いている。ただし、中小企業ではそのテンポは遅い。
- ・ 雇用情勢は、依然として厳しい。
- ・ 個人消費は、持ち直しの動きが続いている。
- ・ 物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、当面、厳しい雇用情勢が続くとみられるものの、海外経済の改善などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、デフレや金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しい。

- ・ 9月の完全失業率（季節調整値）は5.3%で、2ヶ月連続で前月差で低下（0.2ポイント低下）。
- ・ 労働力人口（原数値）は6,658万人で、7ヶ月連続で前年同月差で減少（5万人減）。
- ・ 就業者数（原数値）は6,295万人で、20ヶ月連続で前年同月差で減少（98万人減）。
- ・ 雇用者数（原数値）は5,470万人で、7ヶ月連続で前年同月差で減少（59万人減）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.43倍（前月差0.01ポイント上昇）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.79倍（前月差0.03ポイント上昇）。
- ・ 現金給与総額（原数値・確報）は265,722円で、前年同月比1.8%減。